

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題2

【子どもが健やかに育ち、未来に向かって学べる環境づくり】



めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年を念頭に設定＞

誰一人取り残されることなく、子どもの健やかな成長に必要なサポートが提供されるとともに、社会で生きていく力を身につけるための学びの機会が提供されている状態

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

・天王寺区は全国学力学習状況調査では、区全体として大阪市平均を上回る傾向にある。

・区内人口の約43%が40歳未満で子どもや子育て世代が多い。(令和2年国勢調査)

(参考)

・0～19歳人口割合は 24区中2番目: 令和2年10月1日現在(令和2年国勢調査)

【令和2年度 学校基本調査】

中学校数 9校(24区中3番目)

中学校生徒数 5,373人(24区中1番目)

高等学校数 12校(24区中1番目)

高等学校生徒数 14,984人(24区中1番目)

高等学校生徒数は、市全体の約20%を占める。

【待機児童数】

令和3年4月1日時点

天王寺区 0人

市全体 14人

・令和2年4月1日時点

天王寺区 0人

市全体 20人

・平成31年4月1日時点

天王寺区 1人

市全体 28人

・平成30年4月1日時点

天王寺区 0人

市全体 67人

・平成29年4月1日時点

天王寺区 26人

市全体 325人(24区中3番目に多い)

【令和3年度第1回区民アンケート】

防災やまちのにぎわいなど7つの事業分野のうち

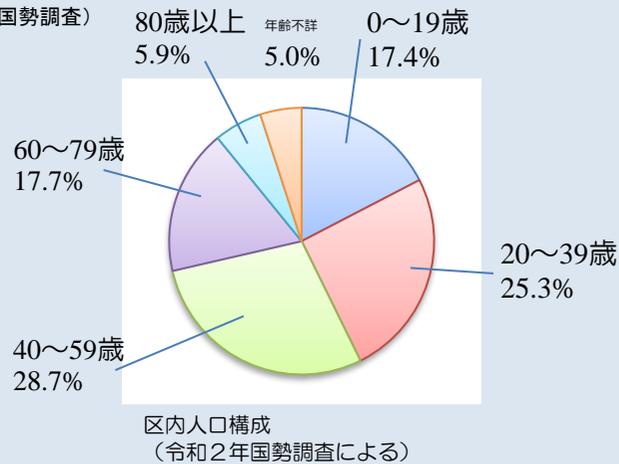
子育て支援を優先する事業として捉える人が多い。

(1位)防犯 132人 (2位)子育て支援 123人

(3位)地域福祉・健康 84人

回答者数 501人

優先する事業分野を1位から3位まで選択、1位に選んだ人数



要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）

・教育に対する意識の高い保護者、地域と連携して、これまで努力してきた結果、私立の高等学校など多くの学校園が集積していると考えられる。

・区において子育て施策・教育施策への期待度が高い。

課題（上記要因を解消するために必要なこと）

・子どもへの教育投資のさらなる促進。

・社会教育の充実や子育て世帯の負担緩和など、地域特性を活かした子育て・教育施策の強化。

・子どもの体験活動への参加機会が減少傾向にあることから、子どもや青少年が、様々な体験、世代を越えた交流の機会や地域でのつながりづくりなどを通じて、健やかに成長できるような環境整備。

・未来を切り拓く学力の向上を図ることのできる学習機会の提供。

・「天王寺区地域福祉ビジョン」の推進。

・発達が気になる支援が必要と思われる子どもに対する相談体制の充実

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

・待機児童対策については、新たに保育園が開設されたことや積極的な利用調整により令和5年4月1日時点の待機児童は「ゼロ」である。全市的な取組と連携し、引き続き待機児童「ゼロ」の継続をめざす。

・子どもが健やかに育ち、未来に向かって学べるための取組が進められていると感じる区民の割合は、前年度比でほぼ横ばいであるが、子育て情報アプリの利用者、子育て情報博覧会参加者の満足度は高い。

・心身の発達・性格行動・非行・不登校など子どもに関する様々な相談が年々増加している状況を踏まえ、家庭児童相談員や言語聴覚士などの専門相談員の配置に加え、相談件数を増加させないためにも、相談に至るまでの子どもやその保護者の抱える問題の要因について、改善するための具体的な取組が合わせて必要である。

めざす成果及び戦略 2-1 【子どもの成長、学力向上への支援及び青少年の育成】

計画	めざす状態<概ね3～5年間を念頭に設定>	戦略（中期的な取組の方向性）
	アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標）	

自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須
	アウトカム指標の達成状況	今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須

具体的取組 2-1-1 【子ども・青少年の育成】

計画	2決算額	2,601千円	3予算額	2,728千円	4予算額	469千円
	当年度の取組内容	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）				

中間振り返り	プロセス指標の達成状況	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性	

自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須

具体的取組2-1-2

【こどもの居場所等における学び・生活サポート(こどもの貧困対策)】

		2決算額	839千円	3予算額	1,010千円	4予算額	1,091千円
計画	当年度取組内容	学校及び民間事業者と連携しながら、こどもの居場所等での活動を、学力向上・精神面の支援につなげるため、居場所等での学習支援・生活相談に応じるサポーターの活動を支援する。					
		プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標) 居場所で学習・生活相談のサポートを受けて、改善したと感じる子どもの割合 70%以上 【撤退・再構築基準】 50%未満の場合には事業を再構築する。					
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	前年度までの実績 令和3年度 学校へのサポーター派遣 1か所 居場所等(民間)へのサポーター派遣 2か所 ※達成状況 100% 令和2年度 学校へのサポーター派遣 2か所 居場所等(民間)へのサポーター派遣 3か所 ※達成状況 92% 令和元年度 学校へのサポーター派遣 2か所 居場所等(民間)へのサポーター派遣 3か所 ※達成状況 71%					
	戦略に対する取組の有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)					
自己評価	当年度取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須 学校へのサポーター派遣 2か所 居場所(民間)へのサポーター派遣 1か所					
	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須 居場所で学習・生活相談のサポートを受けて、改善したと感じる子どもの割合 95%					
	戦略に対する取組の有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)					
		①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成					

具体的取組 2-1-3

【子育て世帯の支援体制の充実】★

		2決算額	10,215千円	3予算額	15,048千円	4予算額	13,708千円
計画	<p>当年度の取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天王寺区に生まれた子どもを持つ家庭を対象に、乳幼児期から子どもの体験・教育等の機会を提供する仕組みとして子育てスタート応援券(クーポン券:10,000円分)を交付する。(令和3年度新規対象者数 804名)事業開始から8年が経過することから、子育て支援施策のあり方を踏まえて検証を行う。 ・虐待担当者・保育士・家庭児童相談員・保育コンシェルジュのチームが、保健師や栄養士と連携し、こどもの心身の発達・性格行動・しつけ等のさまざまな相談への対応、専門機関や保育所・幼稚園を含む地域の子育て資源に関する情報提供を随時行う。 ・保育コンシェルジュ(2名)が、区民にインフォーマルを含めた様々な子育て資源情報の提供、出張相談を行うとともに、地域の他機関との連携の強化や情報交換を行う。 ・スマートフォン等の情報端末に対応した天王寺区子育て情報アプリ「ぎゅっと!」により、子育てに必要な情報(区内の保育園や幼稚園、医療機関、イベント情報等)を養育者に随時配信する。 ・子育て支援施設やサービスの利用促進を図るため、子育て支援機関が子育て世帯に直接取組内容を説明する場を提供する「子育て情報博覧会」を年1回開催する。 ・居場所事業や乳幼児健診を通じて、ことばの発達が気になる子どもとその保護者に対し、言語聴覚士が助言と支援を行うST相談事業を行う。 ・発達障がいがある子どもとその保護者に対し、発達の特性に応じたわかり方や環境調整の工夫を学ぶ専門家によるペアレント・トレーニングを実施することで子どもの問題行動の改善や親のストレスの軽減を図る。 ・発達障がいがある子どもを対象とした運動サポートの機会を提供し、発達段階における運動能力を高め、自主性・自己肯定感を育むための支援を行う。 	<p>プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て情報アプリ 利用者満足度 80%以上 ・子育て情報博覧会 参加者の満足度 80%以上 ・ST相談事業、ペアレント・トレーニング、運動サポート事業の参加者が子どもの成長や関わり方に役に立ったと感じた割合 70%以上 <p>【撤退・再構築基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て情報アプリ 利用者満足度が50%未満の場合には事業を再構築する。 ・子育て情報博覧会 参加者満足度が60%未満の場合には事業を再構築する。 ・ST相談事業、ペアレント・トレーニング、運動サポート事業の参加者が子どもの成長や関わり方に役に立ったと感じた割合が50%未満の場合には事業を再構築する。 <p>前年度までの実績</p> <p>令和3年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て情報アプリ ※達成状況 93.1% ・子育て情報博覧会 令和3年8月実施 ※達成状況 84%(新型コロナウイルスの影響でWeb開催に変更) <p>令和2年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て情報アプリ ※達成状況 97.0% ・子育て情報博覧会 令和2年8月実施 ※達成状況 51%(新型コロナウイルスの影響でWeb開催に変更) <p>令和元年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て情報アプリ ※達成状況 97.3% ・子育て情報博覧会 令和元年8月実施 260世帯参加 ※達成状況 92% <p>平成30年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て情報アプリ ※達成状況 97.3% ・子育て情報博覧会 平成30年8月実施 272世帯参加 ※達成状況 91% <p>平成29年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て情報アプリ ※達成状況 94.8% ・子育て情報博覧会 平成29年8月実施 287世帯参加 ※達成状況 91% 					
	<p>プロセス指標の達成状況</p> <p>①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成</p>	<p>課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p>					
<p>戦略に対する取組の有効性</p>	<p>ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)</p>						
自己評価	<p>当年度の取組実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てスタート応援事業の見直しを行い、事業を再構築 ・児童相談件数 222件 ・子育て情報アプリ「ぎゅっと!」の通年配信 ・子育て情報博覧会の開催 1回(新型コロナウイルスの影響でWeb開催に変更) ・言語聴覚士による相談事業 12回 ・発達障がいがある子どもとその保護者に対するペアレント・トレーニングの実施 7回 ・発達障がいがある子どもを対象とした運動サポートの実施 12回 	<p>課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p> <p>—</p>					
	<p>プロセス指標の達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て情報アプリ 利用者満足度 98.7% ・子育て情報博覧会 参加者の満足度 97% ・言語聴覚士相談事業、ペアレント・トレーニング、運動サポート事業の参加者が役に立ったと感じた割合 90% 	<p>改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p> <p>① (i)</p> <p>—</p>					
	<p>①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成</p>	<p>戦略に対する取組の有効性</p> <p>ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)</p>					

具体的取組2-1-4 【子育て相談機能の強化】

		2決算額	6,764千円	3予算額	9,201千円	4予算額	6,424千円
計画	当年度の取組内容	プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)					
	<ul style="list-style-type: none"> 発達障がいのある子どもを抱えるなど子育てに不安のある保護者が気軽に相談したり、同じ悩みをもつ親同士の情報交換等を行うことができる場(居場所)を区役所内に設置する(週1回) 認可外保育施設に巡回相談員が訪問し、不安や問題を抱えている可能性のある子どもの状況を把握し、適切な行政支援への誘導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 認可外保育所等との連携数 30件以上 居場所による相談件数 45件以上 【撤退・再構築基準】 <ul style="list-style-type: none"> 認可外保育所等との連携数が24件以下の場合には事業を再構築する。 居場所による相談件数が20件以下の場合には事業を再構築する。 					
	前年度までの実績	令和3年度 <ul style="list-style-type: none"> 認可外保育施設巡回回数 31施設のべ256回 10施設から相談あり 連携数31件 居場所の開設 相談件数 68件 令和2年度 <ul style="list-style-type: none"> 認可外保育施設巡回回数 30施設のべ215回 10施設から相談あり 連携数18件 居場所の開設(8月第3週～) 相談件数 67件 					

中間振り返り	プロセス指標の達成状況	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成						
戦略に対する取組の有効性	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)						

自己評価	当年度の実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	<ul style="list-style-type: none"> 居場所の開設 65回 認可外保育施設巡回回数 31施設のべ248回 12施設から相談あり 	—					
	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	<ul style="list-style-type: none"> 認可外保育所等との連携数 31件 居場所による相談件数 73件 ①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成	—					
	戦略に対する取組の有効性	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)					

具体的取組2-1-5 【保育サービスの充実】

		2決算額	—円	3予算額	—円	4予算額	—円
計画	当年度の取組内容	プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)					
	全市を挙げた待機児童対策の取組みの中、こども青少年局と連携しながら、主体的に保育所充実にに向けた取組を進める。	保育所待機児童が解消された状態の継続 【撤退・再構築基準】 保育所待機児童が解消されなければ、事業を再構築する。					
	前年度までの実績	令和3年度 令和3年4月1日時点待機児童数 0人 <ul style="list-style-type: none"> 保育所本園開設 1園(3.9.1) 令和2年度 令和2年4月1日時点待機児童数 0人 <ul style="list-style-type: none"> 保育所分園開設 1園(2.4.1) 令和元年度 平成31年4月1日時点待機児童数 1人 <ul style="list-style-type: none"> 保育所本園開設 2園(31.4.1) 小規模保育事業所の開設 1カ所(31.4.1) 					

中間振り返り	プロセス指標の達成状況	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成						
戦略に対する取組の有効性	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)						

自己評価	当年度の実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	<ul style="list-style-type: none"> 保育所充実に向け、こども青少年局と連携しながら保育所空白地域に対する運営事業者誘致に向けた取組を実施 ※参考 保育所本園開設 1園 待機児童を出さないため、区を超えた入所のあっせんや企業主導型保育園への案内などを実施 	—					
	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	令和5年4月1日時点での待機児童数 0人	—					
	戦略に対する取組の有効性	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)					